

みんなで応募しよう

「展 望」 次 号 作 品 募 集 規 定

創刊号は時間、紙面の関係上応募作品の掲載が不十分でしたが、次号からは増やしていきます。どしどし投稿して下さい。

▼研究論文：神大アカデミズムの広場にするため、あらゆる部門にわたる研究論文を携えて参加しよう。四百字詰原稿用紙三十枚以内。（採用のものには謝礼三千円）

▼批評：反論、賛論など創刊号を読んだ感想を紙面に表わしていこう。「異議なし!」「異議あり!」をつぶやきに終らせず原稿用紙に書こう。研究論文や記事に対する反論、賛論その他の批評を投稿して下さい。四百字詰原稿用紙三枚以上三十枚以内。（採用したものには謝礼）

▼マンガ：アマチュア漫画家を統出させ、われわれ学生の手で社会戯評や「ピカロ爺さん」などを生み出していこう。画用紙に実物より大きく、墨か黒インキで書いて下さい。

（採用のものには謝礼千円）

▼写真：「写真の頁」用の傑作を投稿して下さい。学内行事、統一行動の特ダネ写真など「神大」または「学生」の臭いのする

ものを主としてよせて下さい。応募写真の大きさはキャビネ、（採用したものには謝礼一千元。）

◆紙上往復書簡：…学内の学生、教職員、他大学の学生、教職員、学外の有名無名人などに宛てた手紙を募集します。

発行委員会が配達人になって、返事をもらい、両方を紙上で発表します。なお、手紙の相手は個人でなくて組織、団体、会社などでも結構です。

四百字詰原稿用紙三枚前後。（採用のものには謝礼）

以上、全て学部と、（ジュニアの場合は分校名も）、学年、科名（或はゼミ名やクラス名）、氏名を明記の上郵送して下さい。紙上匿名は一切致しません。（無名の応募作品は無効）応募原稿は一切お返しいたしません。

送り先 神戸市東灘区御影町御影

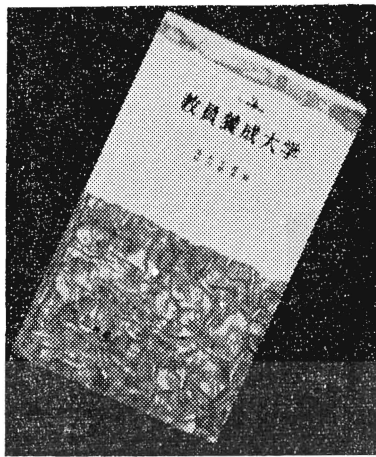
神戸大学 御影分校内

神戸大学総合雑誌「展望」発行委員会

読 書 評

「教員養成大学」を読んで

教 育 学 部
「教員養成大学」読書会



まず最初に、
きわめておおよそ
っぱなものであ
り、多々問題は
含みつつも、断
片的に教育養成
制度の問題にす
るのではなく、
総合的全面的に
はじめて分析し
タイムリーな時

点に出された点を高く評価したい。実に教育ほど戦後の歴史の中でそのあり方をめぐって諸抗争、話題問題になったものはないでしようが、（則ち、教育委員会制度中央集権化↓勤務評定↓道德教育時間特設↓教育課程の改悪↓教科書国定化の方向↓教員養成制度改悪

の方向と、文部大臣↓教育委員会↓校長↓教師↓子供、そして教育内容の制限規正、さらに未来の教師をつくる教員養成大学に手をとばそうとしている。）わけでも教員養成制度改悪の問題は、三十五年度予算で、すでに教頭にまで管理職手当の二、三千元支給が決定し、日教組の組合員三万六千人程が引き抜かれようとしている現実から、また昨年の中央教育審議会が出した答申にそった形で、教育を国家権力にしばりつける最終的なしめつけとして、九、十月頃提起され強行されることになるだろう。そしてこのことは勿論、朝鮮動乱以降復活強化してきた日本独占資本の動評、警職法、小選挙区法、憲法改悪、安保条約改定という政治過程と呼応した形で展開してきた。特に最近では、ベトナム賠償を通過させ、海外に市場を求めるために実質的に反共軍事ブロック体制に加盟する安保条約改定を強行しようとしながら、一方、徹底的な産業合理化による利潤の追求と民主勢力の弾圧のため反動体制を強化しようとしている。こういう時点に出されたという意味でタイムリーだと考える。その簡単な内容は

「逝いて還らぬ教え子よ

私の手は血まみれだ

君を縊ったその綱の

端を私ももっていた

しかも人の子の師の名に於いて」

高知県の一教師によって詠われたこの詩は、一体何を意味し、何を訴えているのか？という所から出発している。

戦前の教師は、聖職と呼ばれ、「天皇の忠良なる臣民」を育てあげる天皇のための、国家権力のための教師であり、国民の死を代償

として、軍閥、財閥、独占資本の帝国主義的野望につかえる、安月給の殺人機製造者であった。師範学校は、この殺人機製造所、つまり一にぎりの独占資本のために国民を死に追いやる聖職者の錬成所として存在した。そして終戦、反ファシズム統一戦線によって示された日本の民主主義的発展の方向原則を明らかにしたポツダム宣言にそっての占領軍の軍国主義的絶対主義の旧体制打破がはじまった。そして教育使節団によって、教師は自由と民主主義のいない手でもあるので、学問、思想、研究の自由を保証され、高い専門的水準と、広い教科を習得する事を目的とする大学に於いて育成されなければならぬという考え方の下に、教育養成大学は出発した。そして十年、どう発展成長してきただろうか。そして現時点での反動文教政策の激しい攻勢のなかで、いかなる教師像を理想とし、そのために教員養成大学は何をなすべきか、という問題を、この本は、現状にそってきわめてリアルにほりえぐってみせてくれる。

その問題提起は、①現場の教育は反動国家権力の手につきこもうとする者と、国民のための教育を守り抜く者との激しい闘いの中におかれている。にもかかわらず、教員養成大学として、国民の教育を推し進める教師像はまだ統一されていらない。目標となるべき教師像を持たない。したがってカリキュラムはバラバラであり、学生が何をなすべきかがきわめて、ぼんやりしている。

②現在、何度も永井道雄氏等によって、指摘され波紋を投げた「デモ、シカ先生」の分析をやっている。具体的なデータで学生の質を論じていないが、動機とその質はどうであれ、最後に投げかけている言葉、「果して教師になるものだけに」「デモ、シカ」が多いの

だろうか？機械的な生活を送る銀行屋、サラリーマンになるものは、それを感じないのか？としたら人間そう失だ。そういった現状をどう打開するかが問題である。」と、鋭く問題につっこんでいる。

③教育予算と、設備の貧弱さからくる教員養成大学の問題点。教官の不足とか設備のきわめて悪い現実。研究費不足。またここからくる就職の問題。

④学生生活の分析からくる問題点

④講義への不満 勿論これは全ての大学がかかえている問題だが、カリキュラムの複雑さから、またその上に非常に沢山講義に出なければならぬし、そのために準備不足になることもある。より本質的には、講義そのものの存在意義目的方向といったものが感じられない。戦前の師範学校時代の教官が七割近くもあり、そういった理由から自然と学生の要求とは離れたところで講義が行われる場合が多い。これから非常に沢山の人たちが不満をもつ。

⑤サークル活動 講義の不満とサークルそのものもつ創造的なものに対する魅力からこれはきわめて活発である。そしてここから出発し、それが組織化され、現在では「働くものの未来をつくる教育の確立のために」というスローガンをかかげた全国教育系学生ゼミナールが六回目を数えている。

⑥アルバイトと就職 また殆んどがアルバイトとして家庭教師をやっている。それをどう意義づけ利用しているかの分析も面白い。

⑦教生 教育実習といって現場の風をふれのぞき、そこでの喜びや問題点が分析されている。

⑧教員養成制度が改革されようとしている。中央教育審議会の答

申による理由は、一、現在の開放制度、免許状制度が教師の質の低下を招いている。二、教師養成の目的が明確に掲げられていないこと。三、教師の需給関係が混乱していることをあげている。

それに対して、次のように現在の問題点を指摘している。①の開放制度については、むしろ現行の一般大学における教員養成の基準線を低く引いているところに問題があり、また戦後の社会状況が一番大きな原因であることが現在かくされている。②に対しても、目的が外から限定され教育内容や程度について、国から決めてもらう学校はもはや大学ではない。ここに大きな学問の自由に対する侵害をみる。③教師は当然なら足りないのが本当なのだ。④の指摘こそ、すしづめ学級をせめて四十人に減らし、その方向で打開すべきだ。そうすれば非常な教員不足なのである。という問題点が実際にはそらされている。⑥教員養成大学の歴史で戦前犯した戦争責任の評価と現状の問題点克服の方向としてこの本を結んでいる。

そして、この本から最も強く訴えられる事はいかに未来の創造者である教師が現代の社会情勢の矛盾の中にあって苦しんでいるか、新教育の教師像から自己脱皮し、国民的教師像を主体的な闘いの中で追求しているかをはっきり認識し、現在教員養成大学に対する全面的な攻撃を加えられようとしている時にこそ、一刻も早く、この無政府の状態を克服するそのあるべき姿を求めねばならないというのである。足りない点としては、師範学校から教員養成大学になつてどう変ったか。そしてそこから生み出された教師たちはどんな像として一般的に相違をもつて働いているか。また予算からの現状追求、就職の現実とそれによって全国各地で学問の自由が

びやかされている面、また教員養成大学の混乱した状態をうらつづける資料が余り入っていない。この点を具体的にうきばりにすべきではないのか。またデモ、シカ先生の現状も資料的なもので全国的なうらづけが知れたかった。しかしながら、今こそそういった矛盾を白書として出すべきではなからうか？現在、ジュニア制度が問題になり、相変わらず、学生生活の送り方の無政府的状态がある。

この時我々はこの講義なり設備なりに対する不満や要求を具体的に調査し組織し団結し克服する道を発見せねばならない。この問題を具体化する意味に於いて、六甲台に置かれたマルクス経済学の自治会による自主的講座、また教育学部の自治会で行われている講義改善のために講座形式の講義からゼミナール形式の授業のやり方にする要求、またその内容に対する要求をきん密な教官との話し合いの中で自主的に全カリキュラムを編成している中に見られるのはなからうか？講義の不満をサークルでこまかくすのではなく、サークルの自主的創造的な喜びをそのまま講義に持ちこむ努力、それを全学あげて全国的組織的に行う段階に来ているともいえる。そしてこのことを学問の自由侵害に対する創造による防衛攻撃の闘いとして、非常に大きなエネルギーとなるだろう。やめよ全国の若者たちよ、デモ、シカの生活をおくることを。全ての自分の未来像に、"こそなろう"の姿勢をもつて体当たりしていきなす。